

いわき地域環境科学会会報



ふいーるど

FIELD No.128

< 目次 >

【記念誌編集委員会から】

- ★ 30周年記念誌 原稿執筆のお願い..... 1

【ご案内】

- ★ 平成30年度総会・懇親会 3
- ★ 平成30年度第1回理事会..... 3

【報告】

- ★ NPO法人いわき環境研究室 4
- ★ いわき自然エネルギー研究会..... 5

【リレーエッセイ】

- ★ ヒヨドリの知恵..... 6

【記念誌編集委員会から】

いわき地域環境科学会 30周年記念誌 原稿ご執筆のお願い

いわき地域環境科学会は平成元年に創立され、30周年を迎えます。このたび、それを記念して会員の皆様から原稿をお寄せいただき、記念誌を制作することになっております。

つきましては、会員の皆様には下記の要領にしたがって原稿をご執筆いただきますようお願い申し上げます。多くの皆様のご協力をよろしくお願い致します。

◆ 原稿執筆要領

1. 原稿の内容

いわき地域の環境に関するご自身の専門に関すること、エッセイ、ご意見など。

※ 専門分野について、事務局からお願いする場合がございます。

2. 原稿の文量・レイアウト

1人1編、A4サイズ横書き5ページ以内 とします。

※タイトル・名前部を除くと約9,500字程度以内

段組み等のレイアウトは編集委員にご一任いただきますようお願い致します。
写真の挿入位置等ご希望があればご記入ください。

3. 原稿の文体

なるべく「～です」「～ます」調を基本にお願いします。

4. 提出時の媒体

電子データ (PC のワープロソフト等使用) または 紙面
写真は電子データの場合には原稿のテキストファイルとは別にお送りください。
ファイル名には氏名を入れてください。氏名(本文).doc 氏名(写真).jpg 等
紙面でご提出いただく場合には原稿と一緒にお願いします。
なお、本文挿入の写真は白黒印刷になるとお考えください。
※表の挿入が必要な方はご相談ください。

5. 提出先

電子データ提出の場合は、30 周年記念誌専用のメールアドレス宛に電子メールにてお送り下さい。ファイルの容量が 5 MB を超える場合には、ご相談ください。
紙面での提出の場合は、事務局までお送りください。

・電子データでの提出先

メールアドレス … 30kinen@essid.org

※メールのタイトルは「30 周年記念誌原稿 (氏名)」としてください。

・紙面での提出先

〒970-8034 いわき市平上荒川字長尾 30 福島工業高等 専門学校内 いわき
地域環境科学会事務局 (電話 : 0246-46-0837)

※ 封筒の表面に「30 周年記念誌原稿在中」とご記入ください。

※ 事務局の電話は、担当者が常時出られませんのでご了承ください。

6. 提出期限

平成 30 年 6 月 30 日 (土) ※ 必着でお願いします。

【ご案内】 平成 30 年度 総会・懇親会のご案内

平成 30 年度の定期総会および交流会を下記のとおり開催します。当会の設立 30 周年を迎え、その記念事業を含めた今年度の事業計画を今回の定期総会にてご提案させていただき予定
です。

また、昨年度に引き続き総会の後に会員相互の情報交換・意見交換の場として「懇親会」を開催いたします。日頃、会員の皆様がいわき地域の環境や当会の運営などについて考えていらっしゃることを話し合える場としたいと思っておりますので、どうぞお気軽にご参加ください。

記

-
1. 日時 平成 30 年 5 月 27 日 (日) 14:00~16:30
 2. 場所 いわき市文化センター 4階・大会議室(2)
 3. 内容 総会 14:00~14:50
(1) 平成 29 年度事業報告および会計報告, 監査報告
(2) 平成 30 年度事業計画(30 周年記念事業を含む)案および予算案
(3) 役員改選
(4) その他
懇親会 15:00~16:30
 4. 問合せ先 いわき地域環境科学会事務局
担当: 山田 (TEL: 0246-46-0800, E-mail: yamada@fukushima-nct.ac.jp)

【ご案内】

平成 30 年度 第1回幹事会のご案内

平成 30 年度の第 1 回幹事会を下記のとおり開催します。幹事の皆様の積極的なご出席をお願いいたします。

記

1. 日時 平成 30 年 5 月 19 日 (土) 15:00~16:30
2. 場所 いわき市文化センター 4階・大会議室(2)
3. 内容 (1) 平成 29 年度事業報告および会計報告
(2) 平成 30 年度事業計画(30 周年記念事業を含む)案および予算案
(3) 役員改選案
(4) その他
4. 問合せ先 いわき地域環境科学会事務局
担当: 山田 (TEL: 0246-46-0800, E-mail: yamada@fukushima-nct.ac.jp)

◆◆◆NPO法人いわき環境研究室からの報告◆◆◆

(平成30年3月1日~4月31日)

【1】福島県環境カウンセラー協会主催の研修会に参加しました

同協会主催の研修会が、3月31日(土)郡山市中央公民館で開催され、当会から2名参加しました。2件のテーマでの研修が持たれました。まず、同協会の相楽昌男氏から「住宅の省エネ~省エネ法4分野」と題しての話題では、4分野(工場等、輸送、住宅・建築物、機械器具)」

それぞれの省エネについて説明がありました。特に、住宅・建築物における省エネの在り方について普段あまり関心を払っていなかった私には、断熱に対する具体的な実験結果に基づく対応策の提案や今後の方向としての「ゼロエネルギーハウス (ZEH)」の考え方等は、参考になりました。続いて、「SDGs とは何か? その意味や意義」と題して、新山敦司氏 (同協会事務局長) から、国連サミットで取り組まれている「持続可能な開発目標 SDGs (=Sustainable Development Goals)」が掲げている貧困や飢餓の撲滅、温暖化対策など 17 分野で世界が解決すべき目標と 169 のターゲットを示しています。それらについてその背景・特徴について説明がありました。特に印象的だったのは、「SDGs が大切にしている 3 つのこと」として、①誰一人取り残さない (包括性)、②すべての国とすべての人による行動の必要性 (普遍性)、③それぞれの目標は不可分で総合的に取り組む必要がある (不可分性)、について具体的な説明をいただきました。他の環境ボランティア団体との交流は必要と感じました。



「住宅の省エネ」を説明する相楽昌男氏



SDGsを説明する新山事務局長

【2】平成 30 年度第 1 回目の理事会を開催しました

4月26日 (木) に福島高専建設環境工学科棟会議室において平成30年度1回目となる理事会を開催しました。今回から監事も出席するようになり、幹事6名・監事2名の計8名が出席しました。

会則により橋本理事長が議長になり議事が進行しました。まず平成29年度活動報告及び決算報告があり、異議なく原案どおり承認されました。続いて平成30年度事業計画 (案) 及び予算 (案) について報告があり、活発な議論を行いました。

本研究会の環境教育支援に使用する資料、教材、分析器具などを改良するため、毎月 1 回程度の勉強会を実施することになりました。このことを通して、器具使用方法の熟度向上もはかりたいと考えています。



今年度、講演会を開催する方針で具体的な内容を検討することになりました。勿論、本研究室だけでは、十分な講演会を開催することは困難であることより、開催に当たっては他の団体との共催として進めることになりました。

現状のHP（ホームページ）は、無料範囲の容量、能力で使用していますが、有料版に変更することが理事会で了解されました。今後は大容量のPDF資料も掲示できることから、調査報告書なども掲示したいと考えています。

今年度も多くの活動計画の推進を了解されたことより、前年同様、いわき市、パルシステム連合会及び福島県の再エネ先駆けなどの助成金申請手続きを進めることになりました。

尚、H29年度の福島県の再エネ先駆けについては、先日、事業完了報告書が受理されました。

本研究室の総会は5月15日（火）18:30から福島高専専攻棟多目的教室で開催することになりましたので、メンバーの皆様には、万障繰り合わせの上ご出席くださるようお願いいたします。

【報告】 「いわき自然エネルギー研究会」の動き（第20報）

【1】市内3施設での動きについて ～ 諏訪神社（平下平窪）

諏訪神社施設の維持管理を担っている「平窪自然塾」では、第8回目となる運営会議を4月9日、諏訪神社社務所にて開催し、新年度の事業内容について話し合いました。会議では、「平窪自然塾ニュース」（第1号）を下平窪地区内に回覧したことの報告があり、今年度事業では、地区内での再生エネルギー施設の利用実態調査や体験学習の内容、会則等について話し合われました。

【2】その他

当研究会も、今年度で、いったん解散になります。これまで、地球環境基金、パルシステム連合会「地域づくり基金」、福島県「再エネ先駆けの地」理解促進事業等からの助成を戴きながら、再生エネルギー設備の設置、学習教材の開発、各種パンフレットの作成、県内外の再エネ施設の見学会等を企画・実践し、会員を中心に理解を深めて参りました。

最後の年度に当たる今年度は、これまでの事業の一層の推進と次年度以降の対応も念頭に置きながら、鋭意進めて参りたいと思っております。

既に、パルシステム連合会様からの助成金は決定しました。

ソフト面（環境に係る調査・研究、教育支援など）を継続する新たな体制を立ち上げることを前向きに検討することになりました。



ヒヨドリ



イヌマキの木と実

【リレーエッセイ】



ヒヨドリの知恵

和田佳代子 (会員)

頭の良い鳥といえば先ずカラスを思い浮かべます。胡桃の実を車に轆かせて割るという話を聞いたときにはびっくりしたものです。しかし、カラス以外の野鳥にも知恵の持ち主はいるようです。季節が遡ってしまいましたが、ヒヨドリに感心させられることがありました。ヒヨドリといえば、住宅街でもよく見かけるなじみのある野鳥です。体も大きく、ピーヨピーヨと大きな声で鳴くことから目にとまりやすく、野鳥に関する知識が乏しい私でも容易に見分けがつく野鳥のひとつです。

私事ですが、2年ほど前から高齢の父の見守りのために、車で15分ほどの実家と自宅との二重生活を続けています。ご紹介する話はその実家で見かけた光景です。山に近い場所にあるため、庭には四季折々の野鳥が訪れます。中でもヒヨドリはよく見かけていました。先ず気づいたのは、道路に面したアルミフェンス付近で、カンカンと音がすることでした。道路といっても幹線道路から少し入ったところで、通り抜けができないため通行量はそれほど多くありません。そこで、初冬の11月から厳冬の1月にかけて日中毎日のように何度となくその音が繰り返されます。不審に思い音のする方向を窺うと、一羽のヒヨドリが何かを啜えてさかんにフェンスにそれを打ち付けていました。フェンスの内側にはイヌマキの木が3本植えてあり、比較的大きな木のため実もそれなりに付きます。その実を目当てにヒヨドリが食事に来ていたわけですが、その食べ方が面白いものでした。

ご存知の方も多いでしょうが、イヌマキの実は団子状の二段重ねになっていて先端の緑色の部分が本物の種子で、その下の部分は花托といい、熟すと赤く色づきます。種子は緑色で硬いのですが、花托は甘くて人も食べることができるそうです。私も、ヒヨドリに倣って実を採って見たところ、団子の根元の花托は木から簡単に外れるのですが、花托と種はしっかりとついていて、離すにはある程度の力が必要でした。鳥が甘い花托だけをついばむのは難しい構造になっていました。木にしてみれば、「二段重ねをそのまま食べてもらい、種をどこかに運んでもらおう」という作戦でしょうが、どうやらヒヨドリのほうが上手のようです。花托の方をくわえてフェンスに打ち付け、不味い(?)種はその場に落としてちゃっかりと甘い花托だけを食べています。かくして、種は舗装道路に空しく積もるだけ。

これは、たまたま見かけたあるヒヨドリだけが習得した技なのでしょう。それともヒヨドリ全体が獲得した能力なのでしょう。ネット検索をしてみました。同じような例は見つかりませんでした。2年続けての目撃にもかかわらず写真に残せなかったのは残念でしたが、野鳥に詳しい方には是非教えてくださいたいと思います。写真に残せるかどうかはヒヨドリと私の写真技術次第ですが、冬にはまた同じ光景を見たいと夏に向かう今から心待ちにしています。

2018.5・1 No.128

発行：いわき地域環境科学会

福島工業高等専門学校

地域環境テクノセンター内

〒970-8034

いわき市平上荒川字長尾30

TEL. 0246 (46) 0837

FAX. 0246 (46) 0843

E-mail : mail@essid.org